

地域包括医療実習Ⅳ

科目責任者：橋 本 充 代（地域医療教育部門）

I. 前 文

地域医療において救急医療の重要性は高まっている。地域において救急隊による患者の搬送と医療機関との連携が円滑に行われなければ、患者の救命は難しくなる。急患が病院に到着するまでの医療をプレホスピタルケアと呼ぶ。本実習は、地域における救急医療の今後解決すべき課題を考えた上で、プレホスピタルケアの第一線機関である消防署において、心肺蘇生を含む一次救命処置を学び、救急車同乗実習を通じて救急医療の現状を知るための学習をする。さらに、大学病院の救命救急センター内でも実習を行い、三次救急医療の実際を学ぶ。

II. 受入可能人数

地域枠学生・地域医療に興味を持つ学生の場合、人数は制限しない。

III. 担当教員

教 授 山 内 かづ代（医学教育学）
 教 授 和 氣 晃 司（救急・集中治療医学）
 准 教 授 橋 本 充 代（地域医療教育部門）
 講 師 金 子 堅太郎（地域医療教育部門）
 講 師 菱 沼 秀 一（看護学部 成人看護学（急性期））
 助 教 寶 住 肇（救急・集中治療医学）
 学内指導者 大学病院救命救急センター医師・職員
 学外指導者 石橋地区消防組合職員
 栃木市消防本部職員

IV. 学習内容

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	5	14	水	6	オリエンテーション	地域医療教育部門教員
2		16	金	6-7	講 話	看 護 学 部 一 菱 沼 秀 一
3		19	月	6-7	講 話 直前オリエンテーション	石橋地区消防組 合救急救命士 救急・集中治療医学教員 地域医療教育部門教員
4	6	7	土	1-3	普通救命講習会 施設見学	石橋消防署職員 地域医療教育部門教員
5	6-8			終日	救命救急センター実習 または 救急車同乗実習	救急・集中治療医学教員 各 消 防 署 職 員
6	9	13	土	午前	救急医療実習報告会	地域医療教育部門教員
7	10	4	土	午前	地域包括医療実習Ⅰ～Ⅳ総括・反省会	地域医療教育部門教員

6～8月中のうちの2日間で、救命救急センター実習または救急車同乗実習を行い、残りは予備日となる。なお、24時間の救急車同乗実習を受ける学生は救命救急センターでの実習を免除する。

また、11月22日（土）に地域包括医療セミナー（1～4年合同）の開催（半日程度）を予定している。

V. 学修の到達目標

- 1) 地域における救急医療の課題・問題点を説明できる。
- 2) 一次救命処置（心肺蘇生を含む）を説明し、シミュレータを用いて実施できる。
- 3) 地域における救急医療を体験し、説明できる。
- 4) 地域社会における救命救急センターの役割を学び、説明できる。
- 5) 地域医療に積極的に参加し、貢献できる。

VI. 成績評価の方法・基準

実習の出席状況、実習態度、実習記録、消防署の評価および実習レポートから総合的に評価する。カリキュラム以外に地域医療に積極的に関心を持ち、自らすすんで実習を行った場合、自己申告することにより評価に加点される。

VII. 教科書・参考図書・A V 資料

地域包括医療実習Ⅳテキスト

その他、必要に応じて、その都度紹介する。

参考図書:「格差時代の医療と社会的処方 病院の入り口に立てない人々を支えるSDH(健康の社会的決定要因)の視点」

武田裕子 日本看護協会出版

「地域医療は面白い!!-地域を癒す48の取材記-」北村聖 ライフメディコム

VIII. 質問への対応方法

科目責任者：橋本充代（commed@dokkyomed.ac.jp／直通 0282-87-2072／内線2111）が窓口になり対応する。基礎医学棟1階123室（橋本）への来室は、原則として平日のオフィスアワー（12：20～17：00）とする。

IX. 求められる事前学習、事後学習及びそれに必要な時間

事前学習：実習の各毎にテキストの該当部分を読んでくること（30分）。

事後学習：実習内容を振り返り、不明な点などを調べておくこと（30分）。

X. コアカリ記号・番号

PR-01：信頼

PR-02：思いやり

PS-03-05：救急・集中治療

IP-01-02：職種間コミュニケーション

IP-02-04：他職種の理解

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

レポートを添削の上、返却する。

Ⅻ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎